

## 入札公告（建設工事）

次のとおり一般競争入札（政府調達対象外）に付します。

平成28年5月11日

支出負担行為担当官  
九州農政局長 金丸 康夫

### 1 工事概要

- (1) 工事名 平成27年度駅館川農地整備事業  
尾立1工区（1工区）区画整理工事
- (2) 工事場所 大分県宇佐市安心院町尾立地内
- (3) 工事内容 国営駅館川土地改良事業に基づき尾立1工区における区画整理工事を行うものである。
  - ・ 区画整理工 A = 3.33 ha
  - 造 成 工 V = 46,100 m<sup>3</sup>
  - 集 水 渠 工 L = 650 m
  - 水 路 工 L = 940 m
  - 道 路 工 L = 913 m
  - 附 帯 工 一 式
- (4) 工期 260日間
- (5) 本工事は提出された競争参加資格申請書（以下「申請書」という。）及び競争参加資格確認資料（以下「確認資料」という。）に基づき、価格と価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式（簡易型）のうち品質確保のための体制その他の施工体制の確保状況を確認し、施工内容を確実に実現できるかどうかについて審査し、評価を行う施工体制確認型総合評価落札方式及び品質・安全等の確保がされないおそれがある極端な低価格での調達を見込んでないかなどを厳格に調査する特別重点調査の試行工事である。
- (6) 本工事は、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）（以下「予決令」という。）第85条に基づく調査基準価格（以下、「調査基準価格」という。）を下回った価格をもって契約する者に対して、予決令第86条に規定する調査（以下、「低入札価格調査」という。）結果の公表及び監督体制の強化等により品質確保等の対策を実施する工事である
- (7) 本工事は、調査基準価格を下回った価格をもって契約する者に対して、施工確認段階等において監督職員が文書により受注者に改善を指示した場合、その回数に応じ以降の1年間の九州農政局管内の別の新規工事における総合評価落札方式の評価点等を減ずる試行工事である。
- (8) 本工事は、競争参加者の公表を落札者決定後又は契約の相手方及び契約金額の決定後に行う工事であり、また、契約締結後に施工方法等の提案を受け付ける契約後VE方式の対象工事である。
- (9) 本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号）に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務づけられた工事である。
- (10) 本工事は、入札説明書の交付、申請書及び確認資料の提出・受領に関わる確認及び入札について原則として電子入札システム（以下「電子入札方式」という。）で行う対象工事である。ただし、電子入札方式によりがたい者であって、従来の紙入札方式による承諾を得た者は紙入札方式で行うことができる。
- (11) 本工事は、入札説明書等を電子入札からダウンロードする適用工事である。なお、電子入札からダウンロードできない状況にある者は、4の(2)のとおり配付する。
- (12) 本工事において、中間前金払に代わり、既済部分払を選択した場合には、短い間隔で出来高に応じた部分払や設計変更協議を実施する「出来高部分払方式」を採用する。
- (13) 本工事は、「共通仮設費（率分）のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の下記に示す費用（以下「実績変更対象費」という。）について、工事実施にあたって不足する技術者

や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、積算基準の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更する試行工事である。

営繕費：労働者送迎費、宿泊費、借上費

労務管理費：募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用

## 2 競争参加資格

- (1) 予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第70条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であつて、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。
- (2) 予決令第71条の規定に該当しない者であること。
- (3) 九州農政局における対象工事種別に係る平成27・28年度一般競争（指名競争）参加資格を付与されている有資格者業者のうち、土木一式工事「B等級」に認定されている者であること。  
ただし、会社更生法（平成14年法律第154号）に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成11年法律第225号）に基づき再生手続開始の申立てがなされている者については、手続開始の決定後、九州農政局長が別に定める手続に基づく一般競争（指名競争）参加資格の再認定を受けていること。
- (4) 会社更生法に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法に基づき再生手続開始の申立てがなされている者でないこと。ただし、上記(3)の再認定を受けた者を除く。
- (5) 九州農政局管内に建設業法に基づく本社（店）、支社（店）、若しくは営業所を有する者であること。
- (6) 施工実績
  - ① 平成13年4月1日以降に元請として完成・引渡し完了した次に掲げる同種工事の施工実績を有すること。なお、共同企業体にあつては、構成員のうち1者が同種工事の施工実績を有すること。また、共同企業体としての施工実績は出資比率が20%以上の場合のものに限る。
  - ② 同種工事とは、企業：区画整理工事又は農地造成工事とする。  
技術者：掘削、切土又は盛土、埋戻しとする。  
また、当該実績が各地方農政局の発注した工事のうち入札説明書に示すものに係る実績である場合にあつては、工事成績評定表の評定点が入札説明書に示す点数未満のものは、施工実績として認めないものとする。
- (7) 配置予定の技術者の状況  
次に掲げる基準を満たす監理技術者又は主任監理技術者を配置できること。  
ただし、建設業法施行令第27条第2項に該当する場合は、その限りではない。
  - ① 1級土木施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。
  - ② 平成13年4月1日以降に元請として完成・引渡し完了した（6）に掲げる同種工事の施工実績を有すること。但し、同種工事の施工実績として1年未満の工期においては1/2以上、1年以上の工期においては6ヶ月以上の従事期間の施工実績を有すること。
  - ③ 監理技術者にあつては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習終了証を有する者であること。なお、共同企業体にあつては、技術者同種工事の経験を有している1人の監理（主任）技術者で足りる。
- (8) 本工事に共同企業体として資料を提出した場合、その構成員は単体として資料を提出することができない。
- (9) 申請書及び確認資料の提出期限の日から開札時までの期間に「九州農政局工事請負契約指名停止等措置要領」に基づく指名停止を受けていないこと。
- (10) 上記1に示した工事に係る設計業務等の受託者（受託者が設計共同体である場合においては、当該設計共同体の各構成員をいう。以下同じ。）又は当該受託者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者でないこと。
- (11) 入札に参加しようとする者の間に以下の基準のいずれかに該当する関係がないこと（基準に該当する者すべてが共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く。）
  - ① 資本関係

以下のいずれかに該当する二者の場合。

(イ) 親会社と子会社の関係にある場合

(ロ) 親会社を同じくする子会社同士の関係にある場合

② 人的関係

以下のいずれかに該当する二者の場合。

(イ) 一方の会社の役員が、他方の会社の役員を兼ねている場合

(ロ) 一方の会社の役員が、他方の会社の管財人を現に兼ねている場合

③ その他入札の適正さが阻害されると認められる場合

その他上記①又は②と同視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合。

(12) 農林水産省発注工事等からの暴力団排除の推進について（平成19年12月7日付け19経第1314号大臣官房経理課長通知）に基づき、警察当局から、部局長に対し、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、農林水産省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。

(13) 社会保険未加入業者の確認

入札参加者が届出の義務【①健康保険法（大正11年法律第70号）第48条の規定による届出の義務、②厚生年金保険法（昭和29年法律第115号）第27条の規定による届出の義務、③雇用保険法（昭和49年法律第116号）第7条の規定による届出の義務】を履行しているかの確認を行うため、建設業法施行規則（昭和24年建設省令第14号）第21条の4に規定する通知書の写しを申請書及び資料の提出時に提出すること。

3 総合評価方式に関する事項

(1) 評価項目

ア 施工体制

① 品質確保の実効性

② 施工体制確保の確実性

イ 企業評価

① 優良工事表彰実績

② 表彰実績

③ 工事成績評定（平均点）

④ 地域への貢献、地域貢献活動への支援（継続的な支援活動）

⑤ 地域への貢献、地域貢献活動への支援（災害協定）

⑥ 地域への貢献、地域貢献活動への支援（災害活動実績）

⑦ 当該地域内での施工実績

⑧ 手持ち工事量

⑨ 不正又は不誠実な行為等

ウ 配置予定技術者の能力

① 資格取得後の経験年数

② 配置予定技術者の保有資格

③ 工事の施工経験

④ 優良工事表彰実績

⑤ 表彰実績

⑥ 当該地域内での施工実績

⑦ 継続教育（CPD等）の取組み状況

(2) 総合評価の方法

ア 「標準点」を100点（入札説明書に示された内容を満たしている場合に付与する点数をいう。）とする。

イ 「施工体制評価点」の算出方法は、上記(1)アの評価基準に応じ、施工体制（品質確保の実効性、施工体制確保の確実性）の評価を行い、施工体制評価点を与える。

ウ 「加算点」の算出方法は、上記(1)評価項目（企業の施工実績、配置予定技術者の能力）について評価した結果、得られた「評価点数」の合計値を入札参加者の「評価点数の合計値」の最

も高い者に30点を与える。その他の者は「評価点数の合計値」に応じ按分して求められる点数を「加算点」として与える。

エ 価格と価格以外の要素を総合的に評価する施工体制確認型総合評価落札方式(簡易型)は、入札参加者の「標準点」と「施工体制評価点」及び「加算点」の合計を入札参加者の入札価格で除して得た数値（{標準点+施工体制評価点+加算点} / 入札価格、以下「評価値」という）により行う。

オ 施工体制評価点の評価結果が低いものに対しては、「加算点」についても減じる措置を行う。

### (3) 落札者の決定方法

ア 入札参加者の「評価値」の最も高い者を落札者とする。

なお、落札の条件は、次のとおりとする。

① 入札価格が予定価格の制限の範囲内であること。

② 評価値が、標準点を予定価格で除した数値（「基準評価値」）を下回らないこと。

但し、落札者となるべき者の「評価値」によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあるとき、著しく不相当であると認められるときは、入札価格が予定価格の制限の範囲内である者かつ適切な「評価値」と考えられる入札をした者のうちから、「評価値」の最も高い者を落札者とすることがある。

イ 上記アにおいて、評価値の最も高い者が2者以上ある場合は、当該者にくじを引かせて落札者を決定する。

ウ 落札者となるべき者の入札価格が調査基準価格を下回る場合は、低入札価格調査を行うものとする。

## 4 入札手続等

### (1) 担当部局

〒860-8527 熊本県熊本市西区春日2丁目10-1 熊本地方合同庁舎A棟4階  
九州農政局 総務部 会計課 契約係  
電話096-211-9111 内線4081  
FAX096-211-9257

### (2) 入札説明書の交付期間、場所及び方法

電子入札より交付する。

交付期間は、平成28年5月11日から平成28年6月3日まで（行政機関の休日は除く。）の午前9時00分から午後5時00分まで

但し、電子入札に対応していない等の理由でダウンロードによる入手が出来ない場合は、下記担当部局より入手すること。

交付期間は、平成28年5月11日から平成28年6月3日まで（行政機関の休日は除く。）の午前9時30分から午後4時30分まで

〒860-8527 熊本県熊本市西区春日2丁目10-1 熊本地方合同庁舎A棟6階  
九州農政局 農村振興部 設計課 技術審査係  
電話096-211-9111 内線4727  
FAX096-211-9821

◎ 配付資料の交付は無償とする。

### (3) 申請書及び確認資料の提出期間及び場所

ア 提出期間

平成28年5月11日から平成28年5月20日まで（行政機関の休日は除く。）の午前9時30分から午後4時30分まで

イ 提出場所

上記(2)の交付場所と同じ

### (4) 申請書及び確認資料の提出方法

ア 電子入札方式の場合

入札説明書に示す様式1を電子入札方式により受付期間内に送付するものとし、その

他の資料は持参または郵送等（書留郵便又は宅配等配達記録の残るものに限る）により提出できるものとする。

イ 紙入札方式の場合

入札説明書に示す様式により、受付場所へ受付期間内に持参または郵送等（書留郵便又は宅配等配達記録の残るものに限る）により提出できるものとする。

(5) 入札、開札の日時、場所及び提出方法

ア 電子入札方式による入札

平成28年6月6日から平成28年6月8日 午前12時00分まで

イ 紙入札方式による入札

平成28年6月6日から平成28年6月8日 午前12時00分まで

工事費内訳書と併せて上記4の(1)担当部局へ持参すること。なお、郵送またはFAXによる入札は認めない。

なお、入札書を提出する者が代理人の場合は委任状を添えて提出すること。

ウ 開札

平成28年6月9日 午後1時30分

場所 九州農政局入札室。

5 その他

(1) 入札及び契約手続において使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。

(2) 入札保証金及び契約保証金

① 入札保証金 免除。

② 契約保証金 納付（納付額 請負代金額の10分の1以上。保管金の取扱店日本銀行熊本支店。）ただし、以下の条件を満たすことにより契約保証金の納付に代えることができる。

ア 利付国債の提供。（保管有価証券の取扱店 日本銀行熊本支店）

イ 金融機関若しくは保証事業会社（公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社をいう。）の保証。（取扱官庁 九州農政局）又、公共工事履行保証証券による保証を付し又は履行保証保険契約の締結を行った場合には、契約保証金の納付を免除する。

(3) 工事費内訳書の提出

①電子入札参加者は、第1回目の入札に際し、第1回目の入札書に記載された金額に対応した工事費内訳書を工事費内訳書作成ツールにより作成すること。

②紙入札参加者は、第1回目の入札に際し、第1回目の入札書に記載された金額に対応した工事費内訳書（競争参加資格確認通知後様式を配付）を紙媒体（会社名、代表者印が必要）と電子ファイルで提出するものとする。

③工事費内訳書の作成に当たっての算定基礎資料の提出を求めることがある。

(4) 入札の無効 本公告に示した競争参加資格のない者の入札、申請書又は確認資料に虚偽の記載をした者の入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする。

(5) 落札者となった者は、落札決定後、契約締結までに、配置予定技術者が営業所の専任技術者と重複していないことが確認できる資料を提出するものとする。

(6) 配置予定監理技術者等の確認 落札者決定後、CORINS等により配置予定主任（監理）技術者等の専任制違反の事実が確認された場合、契約を結ばないことがある。なお、種々の状況からやむを得ないものとして承認された場合の外は、配置予定技術者の変更は認められない。

(7) 手続における交渉の有無 無。

(8) 契約書作成の要否 要。

(9) 契約後VE方式の試行工事 契約締結後、受注者は、設計図書に定める工事目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金を低減することを可能とする施工方法等に係る設計図書の変更について、発注者に提案することができる。提案が適正と認められた場合には、設計図書を変更し、必要があると認められた場合には請負代金額の変更を行うものとする。詳細については特別仕様書等による。

(10) 当該工事に直接関連する他の工事の請負契約を当該工事の請負契約の相手方との随意契約によ

り契約を締結する予定の有無 無。

- (11) 施工体制確認のためのヒアリングを実施するとともに、その際、追加資料の提出を求めることがある。
- (12) 関連情報を入手するための照会窓口 上記4の(2)に同じ。
- (13) 一般競争参加資格の確認を受けていない者の参加 上記2の(3)に掲げる一般競争参加資格の確認を受けていない者も上記4の(3)により申請書及び確認資料を提出することができるが、競争に参加するためには、開札時までには、当該資格の確認を受け、かつ、競争参加資格の確認を受けていなければならない。
- (14) 予決令第86条に規定する調査を受けた者との契約にかかる前金払の金額は、請負代金額の10分の2以内とする。
- (15) 違約金
- ① 本契約に関し、受注者が次に掲げる場合のいずれかに該当したときは、受注者は、発注者の請求に基づき、請負代金額（本契約締結後、請負代金額の変更があった場合には、変更後の請負代金額）の10分の1に相当する額を違約金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。
- ア 本契約に関し、公正取引委員会が、受注者又は受注者の代理人に対して私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第7条又は第8条の2（独占禁止法第8条第1号又は第2号に該当する行為の場合に限る。）の規定による排除措置命令を行い、当該排除措置命令が確定したとき又は独占禁止法第66条第4項の規定による審決において、独占禁止法の規定に違反する行為があった旨が明らかにされたとき。
- イ 本契約に関し、公正取引委員会が、受注者又は受注者の代理人に対して独占禁止法第7条の2第1項（独占禁止法第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。）の規定による課徴金納付命令を行い、当該納付命令が確定したとき又は独占禁止法第66条第4項の規定による審決において、独占禁止法の規定に違反する行為があった旨が明らかにされたとき。
- ウ 本契約に関し、公正取引委員会が、受注者又は受注者の代理人に対して独占禁止法第7条の2第18項又は第21項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。
- エ 本契約に関し、受注者又は受注者の代理人（受注者又は受注者の代理人が法人にあっては、その役員又は使用人を含む。）が刑法（明治40年法律第45号）第96条の6若しくは第198条又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号の規定による刑が確定したとき。
- ② 本契約に関し、上記①のエに規定する場合に該当し、かつ、次のアからウに掲げるいずれかに該当したときは、受注者は、発注者の請求に基づき、上記①に規定する請負代金額の10分の1に相当する額のほか、請負代金額の100分の5に相当する額を違約金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。
- ア 上記①のイに規定する確定した納付命令について、独占禁止法第7条の2第8項又は第9項の規定の適用があるとき。
- イ 上記①のエに規定する刑に係る確定判決において、受注者又は受注者の代理人（受注者又は受注者の代理人が法人にあっては、その役員又は使用人を含む。）が違反行為の首謀者であることが明らかになったとき。
- ウ 受注者が発注者に入札心得第4条の3の規定に抵触する行為を行っていない旨の誓約書を提出しているとき。
- ③ 受注者が、上記①及び②の違約金を発注者が指定する期間内に支払わないときは、受注者は、当該期間を経過した日から支払いをする日までの日数に応じ、年5パーセントの割合で計算した額の遅延利息を発注者に支払わなければならない。
- (16) 電子入札について
- ① 手続き当初から、電子入札方式によりがたい場合は、事前に発注者の承諾を得て従来の紙入札方式で行うことができる。（農林水産省電子入札運用基準標準例に示す別紙様式1に記載の上提出すること）

- ② 電子入札方式による手続き開始後に、紙入札方式への途中変更は原則として行わないものとするが、入札参加者側にやむを得ない事情が生じた場合には発注者の承諾を得て紙入札方式に変更することができる。(農林水産省電子入札運用基準標準例に示す別紙様式3に記載の上提出すること。なお、提出は上記4の(1)あてとする。)
  - ③ 電子入札方式に障害等やむを得ない事情が生じた場合には、紙入札方式に変更することがある。
- (17) 農林水産省の発注事務に関する綱紀保持を目的として、農林水産省発注者綱紀保持規程(平成19年農林水産省訓令第22号)が制定されました。この規程に基づき、第三者から不当な働きかけを受けた場合は、その事実をホームページで公表するなどの綱紀保持対策を実施しています。詳しくは、当省のホームページ [http://www.maff.go.jp/j/supply/sonota/pdf/260403\\_jigyousya.pdf](http://www.maff.go.jp/j/supply/sonota/pdf/260403_jigyousya.pdf) をご覧ください。
- (18) その他 詳細は入札説明書による。